

## 議 事 録

会議名	令和3年度 第2回三鷹市地域包括支援センター運営協議会
日 時	令和4年2月25日（金）午後7時00分～8時00分
会 場	大研修室
出席委員	<p>【委員】 高橋 壮芳、光安 廣修、林 栄守、原 栄義、高橋 圭一、坂本 節子、森田 武志、吉野 勇、林田 昭子、城澤 恵、高橋 慶充、吉田 洋之、小砂 恭甫、倉島 千尋、影山 悦子（順不同・敬称略）</p> <p style="text-align: right;">&lt;定足数 15人中 15人出席：有効&gt;</p> <p>【地域包括支援センター出席者】 三浦 友美恵 (三鷹市新川中原地域包括支援センター 管理者兼主任介護支援専門員)</p>
事務局	健康福祉部部長、健康福祉部調整担当部長、健康福祉部保健医療担当部長 健康福祉部介護保険課長、健康福祉部高齢者支援課長 高齢者支援課高齢者支援係長、高齢者支援課高齢者相談係長 高齢者支援課旧どんぐり山施設利活用担当、介護保険課事業者指導係係長、他事務局3人
会議の公開・非公開	公開
傍聴人数	0人
<p>○ 健康福祉部長挨拶</p> <p>1 令和3年度地域包括支援センター業務運営指針の実績・評価及び令和4年度地域包括支援センター業務運営指針（案）について（資料3～4）</p> <p>(1) 高齢者支援課事務局より、令和3年度地域包括支援センター業務運営指針の実績・評価の報告とともに令和4年度地域包括支援センター業務運営指針（案）の概要説明 資料3～4をもとに、令和3年度地域包括支援センター業務運営指針の実績・評価及び令和4年度地域包括支援センター業務運営指針（案）について、重点的取組や今後より取組が重要となる業務を中心に説明を行った。委員の多数の挙手により承認された。</p> <p>(2) 三鷹市新川中原地域包括支援センター（以下「包括」と言う。）三浦氏より令和3年度地域包括支援センターの活動実績等の報告を行った。</p> <p>ア コロナ禍にともない、フレイル、認知症、家族間の関係性、虐待、ひきこもり、アルコール依存症など多くの問題が顕在化した。また医療機関の受診を控えた市民の在宅療養の相談件数が増大した。</p> <p>イ 健康推進課による「三鷹みんなで地域体操『うごこっと』体操チャレンジ」などに参加した。</p> <p>ウ 認知症当事者の方々による自主グループと連携し、当事者の方々への理解を深めることや、居場所づくり、パートナー（支援者）の支援、当事者の方によるボランティア活動の支援を行った。</p> <p>エ 杏林大学健康学部看護学科の学生の卒業研究に協力し、防災の面より地域診断を行った。その結果、孤立とつながりの課題がクローズアップされた。</p> <p>オ 地域の大手居宅介護支援事業所の閉鎖に伴い、人材不足からケアマネジメントの受入先が不足する事態となった。これに伴い、次のことを行った。</p> <p>(ア) 地域のケアマネジャーが働きやすい環境を検討し、ケア専門職交流会などでICTの活用法について研修会を実施した。</p> <p>(イ) 人材確保という面から、隣接している他市の包括支援センターとも連携を図っ</p>	

り、地域資源、居宅介護支援事業所の情報共有や、合同開催の企画を行うことができた。

<質疑応答>

会長	コロナ禍により地域包括支援センターの業務及び負担の増加はあったか。特に影響を受けた業務があれば教えてほしい。
包括	いろいろ多岐にわたってあるが、退院支援において医療と介護の連携で齟齬が発生し、体制づくりが難しいという状況が発生したり、介護認定について直前になって急遽な対応が必要になり、苦慮した。

**2 指定介護予防支援事業者の指定更新について（資料5）**

指定介護予防支援事業者は、要支援1、2の方及びみたか日常生活チェックシートによる事業対象者の方のケアプランを作成するとともに、サービス事業者との連絡調整などを行う事業者であり、この事業者の指定は、地域包括支援センターのみ受けることが可能となっている。

介護予防支援事業者の指定は6年ごとに指定更新の手続を行うこととなっており、新川中原地域包括支援センターが令和4年4月1日に指定更新を迎えるため現在書類の確認等、指定更新の手続を進めている。

**3 介護予防ケアマネジメント委託事業所の承認について（資料6）**

委員の多数の挙手により7件が承認された。

**4 その他報告事項**

次回の地域包括支援センター運営協議会は令和4年7月に開催予定である。

委員代表2名により確認済